学校番号	206

令和２年度　保健体育科

教科	保健体育	科目	保健	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	「高等学校　保健体育」　（第一学習社出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

健康的で豊かな生活を営むための知識、技能を身につけてください。
教科書の内容だけでなく、様々なことを取り扱いますので、積極的に主体的に自分の興味関心を大切に授業を受けてください。

２　学習の到達目標

１．自分や他の人の生命と生活を尊重し、それぞれの幸せを協力して実現しようとする態度を身につける。
２．健康的な生活を展開し、生涯を通じて充実した人生がおくれるよう深く考え、賢明に行動できるようにする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断	c:知識・理解
観点の趣旨	個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。
評価方法	・学習状況の観察 ・発問評価 ・ノート提出	・学習状況の観察 ・発問評価 ・ノート提出 ・定期考査	・学習状況の観察 ・発問評価 ・ノート提出 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期末	生涯を通じる健康	第１節　生涯の各段階における健康 １．人生の各段階の健康（教 p.60～61）	○		○	a 生涯にわたって健康を保持・増進するための方法を知る。 c 人生の各段階における健康の危険因子について理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント ・課題内容 ・提出状況
		２.思春期の心の成長（教 p.62～63）	○		○	a 心身ともに大人への過渡期である思春期に起こる心の成長について知る。 c 男女の意識の違いなども含め理解する。	
		３．思春期のからだの成長（教 p.64～65）	○		○	a 思春期における、男女それぞれの生殖器官の発達を知る。 c それにともなう責任ある行動の重要性などについて理解する。	
		４．結婚生活と健康（教 p.66～67）	○		○	a結婚に関する制度を知る。 c家族の健康を保つために、どのような対策が必要であるかについて理解する。	
		５.新しい生命の誕生（教 p.68～69）	○		○	a受精のメカニズムを知る。 c 妊娠から出産までの過程と、胎児と母体の変化について理解する。	
		６．幸せで健康な家庭づくり（教 p.70～71）	○		○	a 家族計画の意義や避妊法の特徴などを知る。 c 人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響および、人工授精・体外受精などの問題点についても理解する。	
		７．一生を通じての健康（教 p.72～73）	○		○	a 加齢に伴う心身の変化について知る。 c壮年期以降の健康課題について理解する。	

		８．豊かな高齢社会の実現のために（教 p.74～75）	○		○	a わが国の高齢化の現状を知る。 c 高齢化が進む社会で行われている施策や生活環境の整備について理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント ・課題内容 ・提出状況
		第２節 保健･医療の制度と機関 １．わが国の保健・医療制度（教 p.76～77）	○		○	a わが国で行われている、保健行政について具体的な施策を知る。 c 医療制度の仕組みやサービスについても理解する。	
		２．保健・医療機関の活用（教 p.78～79）	○		○	a 私たちの身の回りにある保健機関・医療機関について知る。 c 機関がもつ役割について理解を深め、活用する。	
		３．医薬品と健康（教 p.80～81）	○		○	a 医薬品の有効性と危険性の両面について知る。 c 医薬品は正しく使用する必要があることについて理解する。	
		４．さまざまな保健活動や対策（教 p.82～83）	○		○	a わが国や世界で行われている、健康の保持・増進をはかるための保健活動や対策について知る。 c 民間機関、国際機関の活動について理解する。	
学年末	社会生活と健康	第１節　環境と健康 １．環境と健康（教 p.86～87）	○		○	a 私たちを取り巻く環境についての歴史を知る。 c 生物多様性の保持の重要性や、近年の人間活動による汚染の急増、地球環境問題などについて理解する。	

		２．大気と健康（教 p.88～89）	○	○		a 大気汚染の原因を知る。 b 大気汚染によって引き起こされる健康被害について考える。	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント ・課題内容 ・提出状況
					○	c 大気汚染防止のための対策について理解する。	
		３．水と健康（教 p.90～91）	○			a 私たち生物にとっての水の重要性を知る。	
					○	c 水汚染の現状・対策について理解する。	
		４．土と健康（教 p.92～93）	○			a 土壌の役割について知りる。	
				○		b 土壌汚染の現状やその対策について考える。	
					○	c 足尾鉱毒事件などの健康被害、公害についても理解する。	
		５．産業廃棄物と汚染物質（教 p.94～95）	○			a 産業廃棄物を処理する過程での不法投棄や不法な焼却などの問題点を知る。	
					○	c 産業廃棄物による環境汚染を防ぐための施策について理解する。	
		６．地球環境と健康（教 p.96～97）	○			a 現在、地球規模で抱えている温暖化やオゾン層の破壊などの環境問題の現状を知る。	
					○	c 解決に向けた対策について理解する。	
		第２節　環境と食品の健康					
		１．環境衛生活動（教 p.100～101）	○			a わが国における上下水道の整備状況やゴミ処理方法について知る。	
					○	c ゴミを少なくするための方策について理解する。	
		２．食品衛生活動（教 p.102～103）	○			a 食品による健康被害の種類を知る。	
					○	c 食品被害を防止するために行われている施策について理解する。	

		３．健康のための環境と食品（教 p.104～105）	○		○	a 環境汚染や食品汚染による健康被害を防ぐために行われている施策を知る。 c 私たちに求められている役割について理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント ・課題内容 ・提出状況
		第３節　労働と健康 １．労働と健康生活（教 p.106～107）	○	○		a 労働と健康のかかわりについて理解を深める。 b 職業の選択に当たって考慮すべきことについて考える。	
		２.労働による職業病（教 p.108～109）	○		○	a 職業病とはどのようなものかを知る。 c 職業病の原因や予防のための対策について理解する。	
		３．労働による傷害（教 p.110～111）	○		○	a 労働による傷害とはどのようなものかを知る。 c 傷害の原因や予防のための対策について理解する。	
		４．職場の健康・安全づくり（教 p.112～113）	○	○	○	a 労働者の健康・安全をまもるために、わが国で行われている施策について知る。 b 労働災害の防止には、作業形態や作業環境の改善を含む適切な健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。 c 自らがとるべき対策についても理解する。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断
c:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。